

阿蘇駅前開発について



市原 正

市原 阿蘇の玄関口としての阿蘇駅前開発も、今回極めて幻想的な噴水の整備によって、更にその効果が期待されるところであるが、噴水とロータリーの間には7枚の看板が立っている。駅からせつかくの噴水が見えにくいし、隣接の市道の出入りの交通安全上も問題があるのではないかと考えるが、あの土地について購入交渉はなされたのか。

井野企画振興課長 交渉を行いましたが、価格の面で折り合わなかったことと、付帯条件も提示されなかったことから、取得がままならず不成立となった状況でございます。

市原 地権者の方から提示された価格や付帯条件の情報開示は、担当課として出来るのか。

企画振興課長 その件は、本日は差し控えていただきます。

市原 その地権者の方と、噴水広場の施工業者さんとの間にトラブルがあったと聞いたが、担当課は把握

されているのか。

企画振興課長 双方から聞いたわけではありませんが、施工業者さんの報告によりますと、その土地に施工業者さんが誤って工事用看板を4枚建てまして、1枚は4ヶ月程、後の3枚は正味2日ないし3日間だったようですが、土地借地料、使用料を請求されて、3社で50万円程支払ったと聞いております。

市原 50万円の金額に驚いているが、今後この問題をどう解決するつもりか。

企画振興課長 市として最大限の努力をすることは勿論ですが、地域の皆様のお力もお借りしながら解決に向け対策を講じていきたいと思っております。

他に、「黒川の河川改修、県道内牧線について」の質問がありました。



駅前の看板

災害復興に向かって！



田中 弘子

田中 内牧は海拔450mに位置し、遊水池が3ヶ所に点在しているにもかかわらず、浸水し孤立しました。まずは、逃げるのが一番ですが、避難道路の必要性をどう考えているのか。

伊藤建設課長 黒川河川の整備が大事であります。災害が発生した場合、安全な避難道路整備を凶つていく事も大切と考えます。今回の災害を踏まえた避難道路の整備については、大きなプロジェクトになりますので、財源の方法も考えていかなければと思っております。

田中 小型ポンプ、積載車の被害数は。

佐藤総務課長 ポンプは跡ヶ瀬の1台で、既に買い替えを終えています。積載車の被害は、11台で4台は修理が完了し、買い替えの7台は今週中に納車の予定になっております。

ゆとり教育について

田中 ゆとり教育（20年余り）の実績と今後の対策については。

阿南教育長 昭和60年代に子どもたちのいじめや不登校、校内暴力が大きな問題となり、原因として受験競争、詰め込み主義の教育が批判され、子どもたちにゆとりを与え、自らが考える力を育成させるため、平成14年度から完全週5日制がスタートしました。結果、一人一人に基礎的な知識や技能が十分に身につけていない子どもが増え、対策として土曜日の授業を行う事により、通常日の負担を少し軽くして、放課後に教育相談や個人指導を行うことになりました。来年度から2校でコミュニケーションの指定を受ける予定にしています。

他に、「キャンピングカーとマルシェの連携」についての質問がありました。



整備が待たれる道路

黒川河川について(輪中堤、嵩上)



野田好一

野田 「輪中堤」、「嵩上」、「遊水池」などの話は、阿蘇市がお願いしたのか、それとも熊本県が話を持って来たのか。

伊藤建設課長 輪中堤、嵩上げ、河道の掘削、遊水池の建設など、熊本県の黒川河川整備計画の一環です。
野田 加藤清正公が400年前に阿蘇谷を遊水池にして、熊本市内を守る為だという話もある。熊本県が220億円掛けて黒川を改修すると言う事だが、確実か。

建設課長 黒川の断面自体が阿蘇谷の面積に対して狭く、勾配自体も緩やかで、これは自然が造った物であり、今後より良い治水対策を進めていく事が大切だと思います。

野田 阿蘇谷に大雨が降った時は、全部黒川に流れてくる訳で、二十数年に一回、内牧に船が浮かぶ状態となる。落差が400mあるのに、それでも輪中堤や嵩上げでかわそうと熊本県が考えていると思う。市内に

は牛舎や倉庫、商店街、サービス業とあるが、その点はどう考えているのか。

建設課長 熊本県が予定してあります。輪中堤・嵩上の目的は、「人を守る」「家を守る」と言うのが前提であり、牛舎や、商店街については対象にしたいと聞いています。

野田 掘削したり遊水池を造ったりして、水位が下がればですが多分無理と思う。出来れば赤瀬ダムの横に隧道を掘ってもらうように要望したらどうか。

建設課長 立野ダムは下流域を守るダムです。10年後に出来るのであれば、お願いしたいと思っております。



赤瀬ダム

被災者支援の現状と今後の課題

仮設住宅入居者の支援の強化を



川端忠義

川端 熊本県被災者生活再建助成金制度(半壊世帯10万円の助成)は、阿蘇市の要望に基づいて県が作ったが、成果と問題点や課題はどうか。

城健康福祉課長 多くの方からは大変喜ばれています。短期間で、建築業者が不足したとも聞いています。
川端 「生活再建」を家の修理に限定したのは、問題があったと思うがどうか。

佐藤市長 生活再建のために使っていたとくと理解してはいたが、住宅の修理となつています。県には見直していただくように働きかけたいと思っております。

川端 住宅の全壊や半壊解体の被災者に、国は被災者生活再建支援金を最高300万円支給しているが、少なすぎるので、500万円ぐらい支給するべきではないか。

市長 もう生活環境が変わっているから、果たしてこの金額でいいのかと思っております。国の方にもつ

と見ていただくように働きかけたいと思っております。

川端 仮設住宅入居者の実情や要望等の把握は、どのようにしているのか。

健康福祉課長 定期的に保健師が訪問して、相談や要望を受けています。高田住宅、池尻、東池尻住宅の入居者代表の方から要望を聞いています。

川端 入居者とは、ヒアリング(面談や電話等)をして、要望等を直接聞くべきではないか。

市長 被災された方は、今でも不自由な生活を強いられています。生活再建の大きな課題もあります。真摯にしっかりと向き合いながら、取り組んで参ります。そのことが一番大事だと思っております。



高田住宅

阿蘇市復興プラン策定について



河崎 徳 雄

河崎 仮設住宅、入居者の不安解消について、国・県も期限延長を検討しているようだが、市も入居者の思いを国・県に要望し、安心を与えてほしい。

城健康福祉課長 入居者の方々の意見を聞き、県に要望を伝えます。

河崎 市は、県の復興プランと共有し、土地改良等、関係機関と一体となり、早期の復旧を成し遂げてもらいたい。市の復興プランは。

佐藤市長 生活再建に向けて、希望が持てる市復興プランを早期に立ち上げます。

河崎 自主避難、事前避難、自助共助、公助の確立を計る自主防災組織の強化を。

佐藤総務課長 行政と市民が一体となり、災害に強い安心な地域づくりを目指します。



藏 原 博 敏

藏原 県道、内牧く坂梨線については、県道としての不備と改修の必要性を訴えてきた。古城4区については、住民の方々の熱意により今年度からの着工がようやく決定したが、その間3〜4年の時がかかった。昨

年の災害を機に、古城全域のバイパス化を県知事自ら発表されたが、経緯は。

高橋土木部長 北部豪雨の際、県道機能が完全にマヒして、手野地区では救助途中で人命が奪われました。そのような事から、現状の県道を1

〜1.5m嵩上し、避難道を兼ねてバイパス化する計画が立てられました。

藏原 知事発表の前日、古城全区長さんの要望書を振興局長と蒲島知事に届け、一日も早いバイパス化を陳情したが、地域全体の道路網を整備しなければ、バイパス効果が発揮できない。県との連携はとれているか。

土木部長 現在、ルートや詳細な部分についての説明はあっていません。

県道バイパスの早期実現を

藏原 県の概算では、25〜30億円必要ではないかと言われている。災害直後の市長と議員団での陳情の折知事は単なる災害復旧ではなく、新しい地域づくりを目指した復興にしたいと説明された。バイパス実現には道路の位置、用地の確保、現県道との連絡道の整備など課題も多いが、今後起こりうる災害に対して、人命が一番であり、地域、行政、議会

で知恵を出し合って、使い勝手の良い県道にしていこうではないか。

土木部長 住民の皆さんの昭和40年代からの悲願でしたが、今回の機会を逃したら、将来的に実現は不可能との思いが強いようです。各地区に道路委員もできつつあり、官民一体となって実現を目指します。

他に、「野焼きに対する人的な体制について」の質問がありました。



工事中の内牧坂梨線



古城地区の県道

本山農政課長 緊急治山事業で42ヶ所を計画しております。農地の災害復旧の県施工分は、既に発注済みであり、市施工分は随時発注しております。査定に漏れた小災害の対応は、リース事業で188件、残り740件は随時発注いたします。

河崎 河道治水対策については。

建設課長 河道掘削・遊水地等で事業費は約220億円です。

国際観光都市阿蘇市の現状と今後の市場開拓について



高宮 正行

高宮 今の国際情勢で中国・韓国
の外国人観光客が減少していると思
うが、入込客数の推移は。

吉良商工観光課長 ピーク時12
1000人、平成23年46000人
となっています。

高宮 現在の観光客誘致活動は。
商工観光課長 海外に流れていた
修学旅行が国内に戻ってきている状
況で、修学旅行誘致のために補正予
算を組んでやっています。

高宮 国際環境観光都市創造事業
委託料200万円の事業内容は。
商工観光課長 オートポリスのア
ジア選手権で、東南アジアを対象と
して支援しています。

高宮 オートポリスに來られてい
る人たちが阿蘇に誘致する事業なの
か。

商工観光課長 今までに2回実施
しており、国際レース関係者がグラ
ンヴィリオホテルに宿泊されています。
高宮 今後の観光振興策につい

て、お話しする。先日、福岡でハラ
ルエクスポ2013が開催され、勉
強してきた。イスラム文化圏の食品
規格で、市場規模は5兆円とも言わ
れている。東南アジアのマレーシア、
インドネシアの人口規模約5億人、
ここをターゲットにしていく必要が
あると思うが。



ハラル食品

商工観光課長 各国の人々の嗜好
も調査しながら、進めていきたいと
思います。

高宮 農業の6次産業化にもつな
がると思う。観光、農業の経済浮揚
が阿蘇市の発展につながると思うが。
商工観光課長 調査をしながら、
方向性を見出していききたいと思いま
す。

高宮 新聞報道によると、去る3
月16日「仮設住宅から新天地へ」
の見出しで、2世帯が出られた。阿
蘇の7・12水害前後の人口動態は。
井野企画振興課長 東日本震災以
降2年間の月平均の転入転出者数は、
転出者の方が10名程多いが、平成21
年からの3年間は、県外からの転
入者が、年ごとに増加している傾向
もあります。



高宮 今朝秀

定住化政策について

今回の災害復興を逆手に取ったまち
づくり政策はいかがか。

企画振興課長 いろいろな移住等
の相談があれば企画振興課で対応す
ることになっていますが、空き家バ
ンク的なことはやっています。今
後、防災上からも空き家の実態把握
から始め、転入者の終の棲家として、
阿蘇市に住んでいただけるシステム
づくりが必要だと思えます。

佐藤市長 阿蘇の大自然と教育・
福祉・農業から観光まで、自分たち
の誇れるもの、発信力を高めていか
なければなりません。それによって
自ずと雇用が発生すると考えて、諦
めずに取り組んで参ります。

他に、「災害復興について」の質
問がありました。

高宮 平成17年来、定住化構想に
ついて質問してきた。「定住化研究
会」を立ち上げ検討されたが、「範
囲が広く、一つの方向性を探ってい
く」という答弁であった。その後は。
企画振興課長 若い人たちが対象
に受け入れ態勢を整備し、地域に活
気を取り戻そうと、又若い人たちの
流出を減らし、阿蘇市に残ってもら
おうという事で、子育て支援策の充
実を図っています。

高宮 Iターン者Jターン者の受
け入れ相談窓口等は出来ないか、又



小里住宅

建設工事入札について



市原 新

市原 阿蘇中央病院建設工事については二回の入札が不調に終わり、三回目の入札に当たり、設計書の見直しが行われた結果、税抜きの予定価格が25億9210万円から29億8095万円あまりにアップし、3億8885万円あまりが増加した。増加した約4億円は、入札前に予算補正する必要はなかったのか。設計業者の委託料はどうなるのか。

岩下中央病院事務局長

24年度当初予算に、24年度・25年度継続費として約45億円を計上、今回3月議会で約5億円を補正し、この中で調整しています。また、設計委託料の変更は予定しておりません。

市原

24年度当初予算45億円の中心で、工事請負費と委託料はいくらか。
事務局長 24年度工事請負費が19億8500万円、委託料が2880万円で、25年度工事請負費が15億4300万円、委託料が3000万円です。

市原 継続費の予算の中で、対応したと理解していいのか。

事務局長 その通りです。

市原 三回目の入札が1月21日、18社指名して2社応札、16社が辞退しているがどう思うか。

和田財政課長 辞退の理由については、調査していません。予定価格を公表しており、価格の面で合わなかったと思われる。

市原 今回は予定価格が約4億円上がっている。全業者に応札してもらったか。談合があったと思われる。下請け業者は何か。

財政課長 市としては、談合があったとは思っておりません。

事務局長 下請け業者は、現在13社です。

市原 約50億円の財源内訳を。

事務局長 現段階で、国県補助金10億3400万円、合併特例債(出資金)6億9600万円、病院事業債32億200万円、一般財源4900万円です。

他に、「災害復旧工事について」「公共施設の管理について」の質問がありました。

損害賠償の責任はどこにあるか(野焼き等で)



井手 明 廣

井手 野焼き、輪地切り、輪地焼等で人的な被害が発生した場合の傷害保険等について、市は何か考えているか。

渡邊経済部長

野焼き等により怪我や死亡事故があった場合の保険については、旧町村の牧野協議会単位で傷害保険に加入しています。保険の内容は、死亡・後遺症1千万円、入院日額8千円等と非常に安く、今の金額では仮に死亡事故が起きた場合、とても賠償しきれない状況です。今後牧野では、責任は持てないというような意見もあり、今後どうしていくのか、今の形でやっていくのか、或いは市が責任を持って対応していくのか、今後考えていく時期が来たのではないかと考えております。

幹線道路整備について

井手 幹線道路(市道部分)について、まだ未整備箇所があるのか。
伊藤建設課長 東西線については、

平成23年度終了し、今現在南北線、池田赤溝線と宮地手野線を進めているところでは。

井手 大体何年度までかかる予定か。
建設課長 池田赤溝線は、平成24年度測量設計を行い、幅員5・5mの道路で、平成28年度目標に整備していきたいと思っております。

井手 幹線道路(広域農道)は、未整備地区は何ヶ所あるか。

本山農政課長 平成23年度で第一期工事が終わり、平成24年から第二期工事を進めております。一期工事の中で、部分的に同意が得られなかった400mは、現在未整備であり、安全面からも今後交渉を再度進めながら、同意が得られれば二期工事で行っていきたくと思っております。

市営住宅について

井手 小里、池尻住宅はすでに完成してはならないが、遅れた理由は。

建設課長 平成20年〜24年度までに終わる予定でしたが、財政的なもの、又他の事業との絡みもあり、計画どおり進んでいません。

他に「7・12水害について(農地転用等)」の質問がありました。